

申請年月日： 西暦 2019 年 6 月 17 日

「人を対象とする医学系研究」研究計画書

I. 研究の名称

脳・脊髄・末梢神経疾患における腫瘍性疾患の臨床研究

II. 研究の実施体制（共同研究機関、共同研究者を含む。研究に関する業務の一部を委託する場合には、当該業務内容及び委託先の監督方法）

		所属、職位、氏名、研究における役割			
研究責任者		武笠晃丈	脳神経外科	教授	
研究分担者		山田和慶	熊本大学	脳神経外科	特任教授
		浜崎 禎	熊本大学	脳神経外科	准教授
		篠島直樹	熊本大学	脳神経外科	講師
		大森雄樹	熊本大学	脳神経外科	助教
		黒田順一郎	熊本大学	脳神経外科	助教
		大田和貴	熊本大学	脳神経外科	助教
		竹崎達也	熊本大学	脳神経外科	助教
		賀未泰之	熊本大学	脳神経外科	助教
		山本隆広	熊本大学	脳神経外科	医員
		林 建佑	熊本大学	脳神経外科	大学院生
		岳元裕臣	熊本大学	脳神経外科	大学院生
		甲斐恵太郎	熊本大学	脳神経外科	大学院生
		上田隆太	熊本大学	脳神経外科	医員
		森川裕介	熊本大学	脳神経外科	医員
		伊東山 剛	熊本大学	脳神経外科	大学院生
		亀野功揮	熊本大学	脳神経外科	大学院生
		河野達哉	熊本大学	脳神経外科	医員
		徳田高穂	熊本大学	脳神経外科	医員
		宮崎愛里	熊本大学	脳神経外科	医員
		村井 晏	熊本大学	脳神経外科	医員
共同研究機関					

（共同研究機関がある場合、基幹施設には機関名の前に◎印、本学の場合は責任者の前に◎印）

Ⅲ. 研究の目的及び意義

脳神経外科では、広く、脳・脊髄・末梢神経疾患を対象として治療を行っている。これらの疾患は、死因の第3位を占める脳出血・くも膜下出血・脳梗塞などの脳血管疾患、脳ドックの普及によって発見される頻度が高まった未破裂を含む脳動脈瘤、頻度は低い治療が困難な脳脊髄動静脈奇形・脳脊髄硬膜動静脈瘻、良性/悪性脳腫瘍・脊髄腫瘍・末梢神経腫瘍、機能的疾患として三叉神経痛・顔面けいれん・脊椎疾患・てんかん・パーキンソン病・振戦、その他救急疾患としても重要な頭部外傷などが占めている。

これらの疾患の確実な診断法・安全な治療法の確立が重要である。本研究はこれらの疾患のうち、脳・脊髄・末梢神経における腫瘍性疾患の臨床的特徴を明らかにし、主に診断法、治療法を研究することを目的とする。本臨床研究により、脳・脊髄・末梢神経疾患についての広く正しい知見が得られ、患者により確実な診断法や安全で効率的な治療を提供できるようになる意義がある。

特に検討する課題は以下の項目となる。

- ・ 良性/悪性脳腫瘍の臨床データと予後などの関連を見る臨床研究
- ・ 良性/悪性脳腫瘍に対する治療方法と有効性・有害事象との関連を明らかにする研究
- ・ 術中電気生理学的モニタリング (VEP/SEP/MEP/ABR/脳神経モニター) の技術と有用性に関する研究
- ・ MRI・CT・脳血管撮影等を用いた3次元画像による脳神経外科領域の術前シミュレーションの有効性検討研究
- ・ 神経内視鏡の有用性に関する臨床研究

Ⅳ. 研究の概要

研究のデザイン (該当するものをすべてチェックしてください)

- 単施設 (熊本大学のみ) 多施設
- 観察研究 介入研究 臨床試験 その他 ()
- 前向き 後ろ向き 両方
- 横断研究 縦断研究
- コホート研究 ケースコントロール研究 データベース研究 群間比較試験 交差試験 事例分析
- その他 ()

侵襲 なし あり (内容:)

介入 なし あり 介入の内容: 薬剤 手術 その他 ()

研究対象者・コホートの主な属性 (1969年から当院脳神経外科で加療された患者)

説明・同意取得の方法 文書 口頭 通知・公開 (拒否の機会を保証) 通知・公開のみ 全くない

研究に用いる試料・情報 (カルテ情報; 年齢、性別、症状、病歴、身体所見、神経学的所見、手術所見等
CT・MRI・脳血管撮影・核医学画像等、血液データ等)

試料・情報の取得方法 (当院で保管されているカルテ、画像データより取得する)

学外施設・機関への試料・情報の提供 なし あり・ありうる

データ解析の方法 (該当するものをすべてチェックしてください)

- 量的解析・統計学的検定 質的解析 その他 ()

主な評価項目 (年齢、性別、症状、病歴、身体所見、神経学的所見、手術所見等
CT・MRI・脳血管撮影・核医学画像等、血液データ等)

研究の資金源 (脳神経外科教室費ないし委任経理金)

金銭的利益相反 あり なし

研究成果の報告方法

- 論文 学会 その他 ()

V. 研究の方法

研究の種類

脳・脊髄・末梢神経における腫瘍性疾患を対象とする疫学研究、観察研究、後向き研究、侵襲性無の臨床研究

研究対象者とその選定基準

研究対象者は、1969年から熊本大学病院、脳神経外科で経験した、脳・脊髄・末梢神経における腫瘍性疾患の患者。

主な内訳は、髄膜腫・聴神経腫瘍・下垂体腫瘍・神経膠腫・悪性リンパ腫・胚細胞腫瘍・頸部腫瘍となる。

以上の患者は、年間に150症例程度、新たに当院での診療を受けている。このうち、研究目的に合致する症例を研究内容に応じて5~200例程度選択し解析する。

研究における除外基準

オプトアウトなどにおいて、患者（被験者）または代理人（代諾者）より、研究参加の辞退の申し出が生じた場合。

研究の侵襲性と介入

本臨床研究は、生体試料を用いない観察研究（カルテ研究）のため、被験者には侵襲性は生じない。

血液など臨床データは、臨床的な必要性から施行された検査データの利用に限定され、本研究のために新たに侵襲性を生じる採血などの処置は生じない。

評価項目

脳・脊髄・末梢神経における腫瘍性疾患の疫学研究、観察研究、後向き研究、侵襲性無の研究（生体試料を用いないカルテ調査）を行い、これらの疾患の臨床的特徴、検査所見の特徴、画像診断法、非観血的及び手術治療法などを解析する。

臨床的特徴、検査所見の特徴、画像診断法、非観血的及び手術治療法などの情報を対象患者のカルテ等の記録より抽出し、これらを元にして、主に以下の点に関し評価を行う。

- ・ 診断における有用性の評価
- ・ 技術の有効性・安全性の評価
- ・ 治療法（非観血的・手術）の有効性・安全性の評価
- ・ 患者転帰・予後に与える影響の評価

解析方法

（１）解析からの除外に関する基準

- 本臨床研究は、生体試料を用いない観察研究（カルテ研究）のためこの項目には該当しない。

（２）評価項目を検証するための分析・解析方法

- 脳・脊髄・末梢神経疾患の観察研究（生体試料を用いないカルテ調査）として、これらの疾患の臨床的特徴、画像診断法、手術治療法、血管内治療法、非観血的治療法などを研究する。その際の分析・解析方法として Microsoft Excel や、SPSS、JMP などの統計ソフトを用いる。

遵守すべき倫理指針

- 今回の研究計画の実施にあたり、当院で定められた倫理指針を遵守する。

実施場所

熊本大学病院 脳神経外科

研究のスケジュール・期間（図・表）

大学院生命科学研究部長（病院長）承認の日 から 西暦 2024年 9月 30日まで

承認後、1969年から熊本大学病院、脳神経外科で経験した、脳・脊髄・末梢神経疾患患者のうち、腫瘍性疾患を対象として随時、カルテを用いた観察研究を行う。結果は、国内外の学会発表や学術誌へ論文として報告する。

研究に用いる試料・情報と取得方法

- 1969年以降に熊本大学病院、脳神経外科で経験した、脳・脊髄・末梢神経疾患患者のうち腫瘍性疾患のカルテ情報（年齢、性別、症状、病歴、身体所見、傷病名、神経学的所見、手術所見、投薬内容等）、CT・MRI・脳血管撮影・核医学画像等、血液・髄液データ等をカルテ及び入院サマリー、手術記事より研究内容に応じて随時取得する。

研究参加の中止基準

- 被験者又は代理人から、保有する個人情報の訂正・利用停止・第三者への提供の停止を求められ、求めが適切であるときは、対象者の研究参加を中止する。
- また、参加を中止した対象者本人又は代理人から同意を得た場合は、すでに取得している試料・情報を解析に利用する。

研究成果の公表

- 本研究で得られた研究成果は、学術論文や国内外の学会発表にて公表を行う。

当該研究の実施を研究機関の長に報告する方法とその内容

- 本研究は観察研究（カルテ調査）であるため3年毎に「人を対象とする医学系研究実施状況報告書」を提出する。
- 研究終了時には終了報告書を提出する。

VI. インフォームド・コンセント

1. 研究対象者からインフォームド・コンセントを受けるための手続き（説明同意文書は付録とする。また、研究対象者が未成年や十分な意思決定能力を持たない成人患者である場合には、インフォームド・アセントを受ける手続きについて記載する）

1969年からの熊本大学医学部附属病院、脳神経外科で経験した、脳・脊髄・末梢神経疾患患者全てからインフォームド・コンセントをとることは困難なため、当該臨床研究の目的を含む研究の実施についての情報をホームページで公開することとする。

- 説明文書は別添資料。

2. 代諾者等からインフォームド・コンセントを受ける場合の手続き（同）

①未成年者 ②成人で十分な判断能力のない場合 ③成人で意識のない場合 のような、特に倫理的な配慮を必要とする研究参加者への配慮の有無と対応策としては、未成年者、成人で十分な判断力のない者、成人で意識のない者について、1969年からの熊本大学医学部附属病院脳神経外科で経験した、脳・脊髄・末梢神経疾患患者全てからインフォームド・コンセントをとることは困難なため、当該臨床研究の目的を含む研究

の実施についての情報をホームページで公開することで、被験者の親権者、配偶者、その他の保護義務者のインフォームド・コンセントもしくはインフォームド・アセントを得ることとする。

3. 研究対象者に緊急かつ明白な生命の危機が生じている状況において研究を実施しようとする場合の全要件を満たしていることを判断する方法

➤ 本研究は観察研究（カルテ調査）であるため、該当しない。

4. 研究対象者から取得された試料・情報について、研究対象者等から同意を受ける時点では特定されない将来の研究のために用いられる可能性又は他の研究機関に提供される可能性がある場合には、その旨と同意を受ける時点において想定される内容

➤ 将来行われる別研究での利用や他機関へ提供する場合、目的や方法、試料・情報の匿名化、倫理審査の申請、情報開示、同意取得の手続きを改めて行う。

VII. 試料・情報の管理

1. 試料・情報（研究に用いられる情報に係る資料を含む）の保管及び廃棄の方法

➤ 研究に用いる試料および情報（対応表を含む）は、当研究室で、管理責任者の元、研究担当者が、パスワードロックをかけたパソコン、鍵のかかるロッカー等で厳重に保管する。

➤ 廃棄する場合は、氏名・住所・生年月日等の個人情報を全て削除した上で規定の手続きに従って行う。

2. 個人情報等の取扱い（匿名化の方法、対応表の作成 などについて）

➤ 研究対象者個人を識別しうる情報（氏名、生年月日、性別、住所、ID番号）やデータ等は、解析する前に個人情報を削り、代わりに新しく符号をつけ、対応表を作成し、個人を識別できないようにした上で、当研究室において管理責任者の元、研究担当者が、パスワードロックをかけたパソコン、鍵のかかるロッカー等で厳重に保管する。

➤ 匿名化された情報は、“匿名化されているもの”に該当し、個人情報は“匿名化されたもの”に該当するものとして研究計画を作成する。

VIII. 研究対象者に対するリスクの管理及び有害事象への対応

1. 研究対象者に生じる負担並びに予測されるリスク及び利益、これらの総合的評価、並びに当該負担及びリスクを最小化する対策

➤ 本臨床研究は、生体試料を用いない観察研究（カルテ研究）のため、研究対象者には負担、リスク及び有害事象は生じない。

2. 侵襲を伴う研究によって有害事象が発生した際の対応、補償の有無及びその内容

➤ 本臨床研究は、生体試料を用いない観察研究（カルテ研究）であり、研究対象者には有害事象は生じないため、補償は生じない。

3. 通常の診療を超える医療行為を伴う研究（介入研究）の場合、研究対象者への研究実施後における医療の提供に関する対応

➤ 本臨床研究は、介入研究ではないため、該当しないが、研究実施後も最善の医療・ケアを提供する。

IX. 研究の透明性の確保

1. 当該研究の資金源

- 本臨床研究は、主に脳神経外科教室費ないし委任経理金によって行われる予定である。

2. 利益相反の公表と管理

- 本研究は、脳神経外科教室費ないし委任経理金によって行われる予定であるが、本研究に携わる全研究者によって公正に費用を使って研究を行う。本研究の利害関係の公正性については、熊本大学大学院生命科学研究部等臨床研究利益相反審査委員会の承認を得ている。
今後も、当該研究経過を熊本大学生命科学研究部長へ報告すること等により、利害関係の公正性を保つ。

3. モニタリング及び監査を実施する場合の実施体制及び実施手順（侵襲を伴い介入を行う研究の場合）

- 本臨床研究は、生体試料を用いない観察研究（カルテ研究）のため、該当しない。

X. その他

1. 研究に関する情報公開・データベース登録の方法（介入を行う研究の場合）

- 本臨床研究は、介入研究ではないため、該当しない。

2. 研究対象者等及びその関係者からの相談等への対応、結果のフィードバックなど

- 研究対象者から今回の研究に関する問い合わせや相談を求められた際は、主治医もしくは下記の問い合わせ先へ連絡頂き、担当者が対応する。
- 研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会・論文等で発表する。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存する。なお研究データを統計データとしてまとめたものについては研究対象者から問い合わせがあれば、熊本大学生命科学研究部長の許可のもと開示する。
- 偶発的所見（研究の過程で見つかった研究対象者の健康に重要な情報）や研究対象者の血縁者・子孫にとって重要な情報が得られた際は、研究担当者が対応する。
- 研究成果は熊本大学病院 脳神経外科に帰属する。

3. 研究対象者等への経済的負担又は謝礼の内容

- この研究に関する費用は、熊本大学病院脳神経外科教室費ないし委任経理金から支出されるので、研究対象者への経済的負担や謝礼は生じない。

本研究に関する問い合わせ先：

所 属	脳神経外科
応答責任者名	大森 雄樹
電 話	096-373-5219
E - m a i l	ohmori@kuh.kumamoto-u.ac.jp

当院の脳神経外科にて御加療を受けた方へ

【研究課題】

脳・脊髄・末梢神経における腫瘍性疾患の臨床研究

【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示す通りです。

研究機関 熊本大学大学院生命科学研究部 脳神経外科学講座

研究責任者 武笠晃文 脳神経外科教授

担当業務 研究統括

【研究期間】

承認（ 2019 年 月 日）後、2024 年 9 月 30 日まで

【対象となる方】

研究対象者は、1969 年から熊本大学病院、脳神経外科で経験した、脳・脊髄・末梢神経における腫瘍性疾患の患者様です。

主な内訳は、髄膜腫・聴神経腫瘍・下垂体腫瘍・神経膠腫・悪性リンパ腫・胚細胞腫瘍・頸部腫瘍です。

【研究の背景・意義・目的】

脳神経外科では、広く、脳・脊髄・末梢神経疾患を対象として治療を行っています。これらの疾患は、死因の第3位を占める脳出血・くも膜下出血・脳梗塞などの脳血管疾患、脳ドックの普及によって発見される頻度が高まった未破裂を含む脳動脈瘤、頻度は低いですが治療が困難な脳脊髄動脈奇形・脳脊髄硬膜動脈瘻、良性/悪性脳腫瘍・脊髄腫瘍・末梢神経腫瘍、機能的疾患として三叉神経痛・顔面けいれん・脊椎疾患・てんかん・パーキンソン病・振戦、その他、救急疾患としても重要な頭部外傷などが占めています。

これらの疾患の確実な診断法・安全な治療法の確立が重要です。本研究はこれらの疾患のうち、脳・脊髄・末梢神経における腫瘍性疾患の臨床的特徴を明らかにし、主に診断法、治療法を研究することを目的とします。本臨床研究により、脳・脊髄・末梢神経疾患についての広く正しい知見が得られ、患者により確実な診断法や安全で効率的な治療を提供できるようになる意義があります。

特に検討する課題は以下の項目となります。

- ・ 良性/悪性脳腫瘍の臨床データと予後などの関連を見る臨床研究
- ・ 良性/悪性脳腫瘍に対する治療方法と有効性・有害事象との関連を明らかにする研究
- ・ 術中電気生理学的モニタリング (VEP/SEP/MEP/ABR/脳神経モニター) の技術と有用性に関する研究
- ・ MRI・CT・脳血管撮影等を用いた3次元画像による脳神経外科領域の術前シミュレーションの有効性検討研究

・神経内視鏡の有用性に関する臨床研究

【研究の方法】

この研究は、熊本大学病院倫理委員会の承認を受け、熊本大学病院長の許可を受けて実施するものです。これまでの診療でカルテに記録されている年齢、性別、症状、病歴、身体所見、神経学的所見、手術所見等のデータ、CT・MRI・脳血管撮影・核医学画像等、血液・髄液データ等を収集して行う研究です。特に患者さんに新たにご負担頂くことはありません。

【個人情報の保護】

この研究に関わって収集される試料や情報・データ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。

あなたの情報・データ等は、解析する前に氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく符号をつけ、どなたのものか分からないようにした上で、当研究室において管理責任者の元、研究担当者が、パスワードロックをかけたパソコン、鍵のかかるロッカー等で厳重に保管します。ただし、必要な場合には、当研究室においてこの符号を元の氏名等に戻す操作を行い、結果をあなたにお知らせすることもできます。

★この研究のためにご自分のデータを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局までご連絡ください。ご連絡を頂かなかった場合、ご了承頂いたものとさせていただきます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会・論文等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたしますので下記までご連絡ください。ご不明な点がございましたら主治医または研究事務局へお尋ねください。

この研究に関する費用は、主に熊本大学大学院生命科学研究部 脳神経外科学講座の教室費ないし委任経理金から支出されています。

○本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。

○尚、あなたへの謝金はございません。

2019年7月

【問い合わせ先】

熊本大学病院 脳神経外科 助教 大森雄樹

住所：熊本市中央区本荘1-1-1

電話：096-373-5219（内線 5219） FAX：096-371-8064

Eメールでのお問い合わせ：ohmori@kuh.kumamoto-u.ac.jp

申請年月日： 西暦 2019 年 6 月 17 日

「人を対象とする医学系研究」研究計画書

1. 研究の名称

④・脊髄・末梢神経疾患における血管障害性疾患の臨床研究

2. 研究の実施体制（共同研究機関、共同研究者を含む。研究に関する業務の一部を委託する場合は、当該業務内容及び委託先の監督方法）

	所属、職位、氏名、研究における役割			
研究責任者	武笠晃丈	脳神経外科	教授	
研究分担者	山田和慶	熊本大学	脳神経外科	特任教授
	浜崎 禎	熊本大学	脳神経外科	准教授
	篠島直樹	熊本大学	脳神経外科	講師
	大森雄樹	熊本大学	脳神経外科	助教
	黒田順一郎	熊本大学	脳神経外科	助教
	大田和貴	熊本大学	脳神経外科	助教
	竹崎達也	熊本大学	脳神経外科	助教
	賀未泰之	熊本大学	脳神経外科	助教
	山本隆広	熊本大学	脳神経外科	医員
	林 建佑	熊本大学	脳神経外科	大学院生
	岳元裕臣	熊本大学	脳神経外科	大学院生
	甲斐恵太郎	熊本大学	脳神経外科	大学院生
	上田隆太	熊本大学	脳神経外科	医員
	森川裕介	熊本大学	脳神経外科	医員
	伊東山 剛	熊本大学	脳神経外科	大学院生
	亀野功揮	熊本大学	脳神経外科	大学院生
	河野達哉	熊本大学	脳神経外科	医員
	徳田高穂	熊本大学	脳神経外科	医員
	宮崎愛里	熊本大学	脳神経外科	医員
村井 晏	熊本大学	脳神経外科	医員	
共同研究機関				

共同研究機関がある場合、基幹施設には機関名の前に◎印、本学の場合は責任者の前に◎印)

申請年月日： 西暦 2019 年 6 月 17 日

「人を対象とする医学系研究」研究計画書

1. 研究の名称

④・脊髄・末梢神経疾患における機能的及び脊椎・脊髄疾患の臨床研究

2. 研究の実施体制（共同研究機関、共同研究者を含む。研究に関する業務の一部を委託する場合は、当該業務内容及び委託先の監督方法）

	所属、職位、氏名、研究における役割			
研究責任者	武笠晃丈	脳神経外科	教授	
研究分担者	山田和慶	熊本大学	脳神経外科	特任教授
	浜崎 禎	熊本大学	脳神経外科	准教授
	篠島直樹	熊本大学	脳神経外科	講師
	大森雄樹	熊本大学	脳神経外科	助教
	黒田順一郎	熊本大学	脳神経外科	助教
	大田和貴	熊本大学	脳神経外科	助教
	竹崎達也	熊本大学	脳神経外科	助教
	賀未泰之	熊本大学	脳神経外科	助教
	山本隆広	熊本大学	脳神経外科	医員
	林 建佑	熊本大学	脳神経外科	大学院生
	岳元裕臣	熊本大学	脳神経外科	大学院生
	甲斐恵太郎	熊本大学	脳神経外科	大学院生
	上田隆太	熊本大学	脳神経外科	医員
	森川裕介	熊本大学	脳神経外科	医員
	伊東山 剛	熊本大学	脳神経外科	大学院生
	亀野功揮	熊本大学	脳神経外科	大学院生
	河野達哉	熊本大学	脳神経外科	医員
	徳田高穂	熊本大学	脳神経外科	医員
	宮崎愛里	熊本大学	脳神経外科	医員
村井 晏	熊本大学	脳神経外科	医員	
共同研究機関				

共同研究機関がある場合、基幹施設には機関名の前に◎印、本学の場合は責任者の前に◎印)

申請年月日： 西暦 2019 年 6 月 17 日

「人を対象とする医学系研究」研究計画書

1. 研究の名称

④・脊髄・末梢神経疾患における外傷性疾患の臨床研究

2. 研究の実施体制（共同研究機関、共同研究者を含む。研究に関する業務の一部を委託する場合は、当該業務内容及び委託先の監督方法）

	所属、職位、氏名、研究における役割			
研究責任者	武笠晃丈	脳神経外科	教授	
研究分担者	山田和慶	熊本大学	脳神経外科	特任教授
	浜崎 禎	熊本大学	脳神経外科	准教授
	篠島直樹	熊本大学	脳神経外科	講師
	大森雄樹	熊本大学	脳神経外科	助教
	黒田順一郎	熊本大学	脳神経外科	助教
	大田和貴	熊本大学	脳神経外科	助教
	竹崎達也	熊本大学	脳神経外科	助教
	賀未泰之	熊本大学	脳神経外科	助教
	山本隆広	熊本大学	脳神経外科	医員
	林 建佑	熊本大学	脳神経外科	大学院生
	岳元裕臣	熊本大学	脳神経外科	大学院生
	甲斐恵太郎	熊本大学	脳神経外科	大学院生
	上田隆太	熊本大学	脳神経外科	医員
	森川裕介	熊本大学	脳神経外科	医員
	伊東山 剛	熊本大学	脳神経外科	大学院生
	亀野功揮	熊本大学	脳神経外科	大学院生
	河野達哉	熊本大学	脳神経外科	医員
	徳田高穂	熊本大学	脳神経外科	医員
	宮崎愛里	熊本大学	脳神経外科	医員
村井 晏	熊本大学	脳神経外科	医員	
共同研究機関				

共同研究機関がある場合、基幹施設には機関名の前に◎印、本学の場合は責任者の前に◎印)